

商業施設「パトリア」(左)の破産などにより、石川県内で最も下落率が高かった「R七尾駅前。右は再開発ビル「ミナ・クル」



七尾下落率最悪

駅前7.5%マイナス パトリア破綻で沈下

商業地 変動率下位地点

順位	所在地	価格 (円/m ²)	変動率 (%)
①	七尾市神明町	62,000	▲7.5
②	珠洲市飯田町	18,500	▲6.1
③	輪島市新穂通	34,100	▲5.3
④	輪島市前町清水	14,500	▲5.2
⑤	穴水町鶴島	18,300	▲5.2

住宅地 変動率下位地点

順位	所在地	価格 (円/m ²)	変動率 (%)
①	穴水町由比ヶ丘	9,400	▲6.0
②	珠洲市正院町正院	8,000	▲5.9
③	珠洲市宝立町鶴岡	8,100	▲5.8
④	輪島市堀町	18,100	▲5.7
⑤	輪島市河井町	31,600	▲5.7

(▲はマイナス、小数点第2位を四捨五入)

「駅を利用するのは通学する高校生がほとんど。パトリアも無くなり、買い物に来ていた若年層はここに行ったのだろうか」。七尾市中心部で生まれ育った神明町会長の西村邦夫さん(78)は、駅前の現状を嘆く。

神明町は再開発ビルや居酒屋チェーン店、パチンコ店、営業所などが立ち並び、七尾の中心商業地域だ。その七尾駅前の地価は、減少の一途をたどる七尾市の人口のように毎年下がりが続いている。地価は12万2千円をつけた2008年以降ダウンし、09～18年までの下落率は4.8～8.7%で推移。今年は6万2千円と、11年前のほぼ半額に沈んでいる。

市中心部にある「本杉通り商店街で、1933(昭和8)年創業の北屋茶店を営む北林昌之(さん)は、パトリアの前身のユニ

「七尾店が開業した45年前を振り返り、当時は大きな商業施設ができた穴水や輪島から多くの人が訪れていた。レンガが追い付かないほどだった」と語った。95年にユニクロ地にパトリアがオープンし、2006年に飲食店やフィットネスクラブなどが入るビル「ミナ・クル」が開業するなど再開発が進められた。県宅地建物取引業協会によくと、七尾駅前の下落は、パトリアの後がどうなるか決まらず、期待感がしぼんだ結果、周辺の地価が下がっている可能性がある。金沢駅前では、まとまった土地や建物が空いても、「次への期待感」があることから地価は簡単に下がらないという。担当者は「七尾の現状を考えると、下がって当たり前。パトリアのテナントが確定したら上がるかも

「石川県内で最も地価の下落率が高かったのは、能登の中心地であるJR七尾駅前。七尾市神明町だった。下落率は7.5%と前年の5.6%から拡大。人口減少に加え、駅前の商業施設「パトリア」破綻の影響もあり、かつて能登のにぎわいの象徴だった場所は地盤沈下が進まない。地元からは「七尾は凋落するばかりだ」「駅前を歩く人はほとんど見ない」と懸念する声が出ている。

北陸経済

「は19日、東京ビッグサイトでの日間の日程で始まり、清水建設(東京)の医療セミナーと写真展は19日、

小松で下草刈りに汗を流すNTTドコモ北陸支社NTTドコモ北陸支社の「下草刈りまつり」森林整備活動写真、同社提供



「しれない」と推測した。商業利用へ知恵出す七尾商工会議所の大林重治会頭は「パトリア運営会社の破産という一連の動きから言えば、やむを得ない状況だが残念だ」と話す。大林氏によると、地価は先が見通せないという傾向がある。パトリア再生の道筋が示されれば浮上の可能性は十分あるとし、「七尾市は商業利用を念頭に取得に動いているが、どう活用されるかが問題だ。物販だけでは厳しい。経済界も知恵を出し、できることをやってみよう」と語った。

どを含め500円～1千円となる。